

## マレーシア（クランタン州）における イスラーム教育の発展に関する一考察

\*服部美奈    \*\*西野節男    \*\*\*小林忠資

はじめに

1. ボンドックからマドラサへ

1.1 近代学校の設立

1.2 伝統的な学習機関ボンドック

1.3 トッ・クナリ

2. MAIK 設立（1915）から PAS の政権復帰（1990）まで

2.1 植民地期（独立前）の MAIK による学校制度

2.2 第二次大戦後から独立までの MAIK 学校

2.3 マラヤ連邦独立（1957）後のイスラーム教育の展開

2.4 プミブトラ優遇政策（1971～）下におけるイスラーム教育

3. 1990年以降のイスラーム教育の展開

3.1 KIAS の設立経緯と現状

3.2 YIK が管轄する学校の状況

おわりに

### はじめに

本稿の目的は、クランタンにおけるイスラーム教育の史的展開の整理をとおして、ローカル、ナショナル、グローバルな関係性のなかでマレーシアにおけるイスラーム教育の発展を捉え直すことである。

マレーシアは、13の州と3つの連邦直轄地（クアラルンプール、プトラジャヤ、ラブアン）からなる。13州のうち、ボルネオ島北部にあるサバ州、サラワク州を除く、11州がマレー半島にあり、半島マレーシアと総称される（図1参照）。そして、マレー半島にある11州のうちマレー半島北東部に位置しているのがクランタンである。また、マレーシアは全体としてはマレー人と先住民のプミブトラ（67.4%）、華人（24.6%）、インド系（7.3%）とその他（0.7%）からなる典型的な多民族国家として知られているのに対して、クランタン

は人口の約95%がマレー人イスラーム教徒であり、華人やインド系の移民は少ない<sup>1)</sup>。さらに、英国植民地期以来、錫鉱山とゴム・プランテーションで開発が進んだ西海岸地域とは対照的に、クランタンは豊かな穀倉地帯が広がると同時に東海岸部は東シナ海に面した農業と漁業が盛んな地域であるが、経済的にはマレー半島のなかで最も遅れた地域となっている。

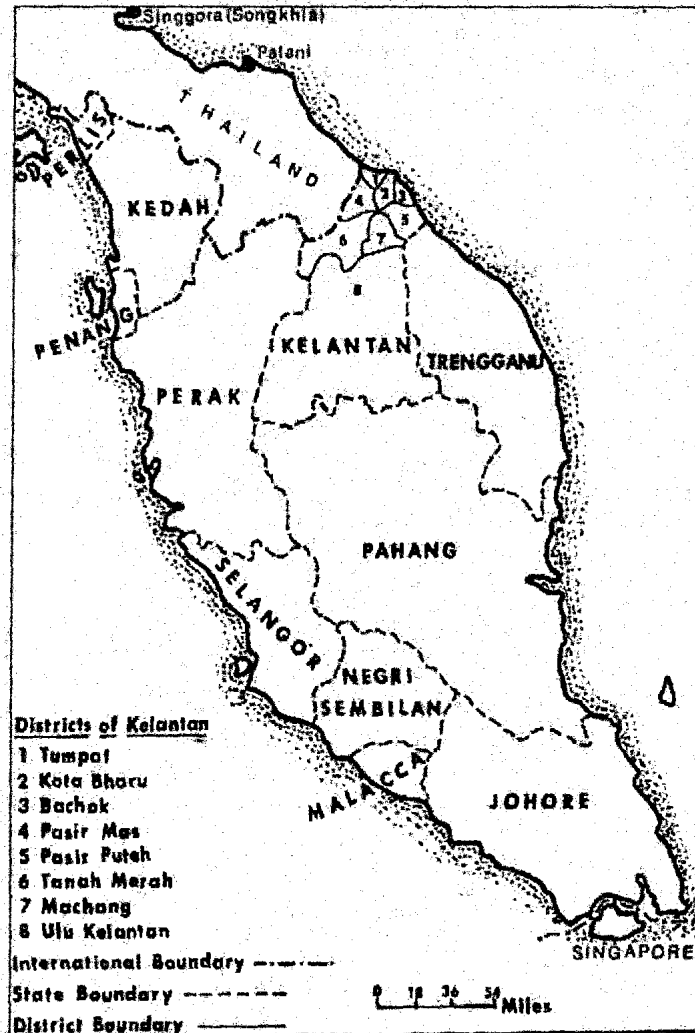
クランタンは古くから「メッカのペランダ（Serambi Mekah）」と呼ばれ、南部タイのパタニやスマトラ島のアチェとともに、マレー・イスラーム世界の一つの教育の中心を形成してきた。植民地期には、イスラーム教育に関する管理制度をいち早く整備し、また独立後には他州に先駆けて、州レベルでイスラーム高等教育機関創設の取り組みが行われた。この背景には、クランタンにおける政治とイスラームをめぐる特別な構造がある。連邦議会は、独立以降、マレー人、華人、インド人の各民族政党である UMNO（統一マレー人国民組織）、MCA（馬華公会）、MIC（マレーシア・インド人会議）が中心に連合（Alliance）を組み、後にそれを拡大した国民戦線（Barisan Nasional）が政権与党を

\* 名古屋大学大学院教員

\*\* 名古屋大学大学院教員

\*\*\* 名古屋大学大学院学生

図1 マレー半島とクランタンの地方



Kessler, Clive S. (1978) *Islam and Politics in a Malay State—Kelantan 1838–1969*. Cornell University Press, p.24

形成している。それに対して、クランタンの州議会は、イスラーム政党のPAS (Parti Islam Se-Malaysia: 全マレーシア・イスラーム党) が長期にわたって与党政権を担ってきた。1973年から一時、PASは国民戦線と連立を組み、1978年には国民戦線とブルジャサ(Berjasa)の連立に政権を奪われたが、1990年に州政権への復帰を果たした。それ以来、20年余りにわたり、クランタン州のイスラームのあり方に大きな影響を与えてきた。

因みに、イスラームは連邦の宗教であり、イスラームに関して各州のスルタン（州国王）が権限をもつ。また、スルタンのいない4州（ペナン、マラッカ、サバ、サラワク）並びに連邦直轄地では、5年任期の

もと9州のスルタンによる互選で選ばれる連邦国王（Yang di-Pertuan Agong）にイスラームに関する権限が委ねられている<sup>21</sup>。しかし、1970年代半ばから連邦政府によるイスラームへの関与が増大してきている。イスラーム教育に関して具体的には、1970年代半ば以降のイスラーム中等学校の連邦移管と宗教国民中等学校（SMKA）の創設、連邦によるイスラーム教員養成カレッジの創設、2004年からの統合全寮制学校（SBPI）の設立、そして最近の民間宗教学校に対する連邦政府による補助の提供（SABKのカテゴリー創設）が挙げられる。

本稿は、国家と首都のクアラルンプールを中心にマ

レーシア教育を描くのではなく、連邦を構成する一つの州（クランタン州とその州都コタ・バル）に視座を置き、周縁とイスラームの観点からマレーシア国民教育制度の発展を捉え直そうとする試みである。それは同時に、今後の比較教育学における地域研究の可能性を思索するとともに、マレー・イスラーム世界の教育を如何に捉え如何に記述するのかという課題に拘泥し続けていくための一つの予備的作業であることを申し添えておきたい。また、本稿の内容は主に、2010年9月17日～23日にかけて実施したクランタンとクアラルンプールでの現地調査で収集したデータ・資料にもとづいている。

## 1. ポンドックからマドラサへ

### 1.1 近代学校の設立

イギリスによるマラヤの植民地化は、1776年のベナン領有に始まり、シンガポール領有(1819年)、英蘭条約によるマラッカ取得(1824年)と段階的に進められていった。英蘭条約は、イギリスとオランダの勢力圏をマラッカ海峡で分割するという合意で、イギリスは西スマトラのベンクーレン植民地をオランダに譲渡する一方で、オランダをマラッカから撤収させた。そして、イギリスは、マラッカ海峡の東側、マレー半島のベナン、シンガポール、マラッカの3つの海港都市を海峡植民地（Straits Settlements）として直轄統治した。

一方、マレー半島内陸部への進出は、1874年にベラと交わされたパンコール協約を契機に開始される。その後、イギリスは、ベラに続いて、スランゴール、スンガイ・ウジョン、ジェレブ（1886年）、パハン（1887年）にスルタンへの助言者としてイギリス植民地官僚である理事官（Resident）を送り込んだ。理事官は、イスラームと慣習以外に関する事柄についてスルタンに対して助言を行い、スルタンはその助言に従う必要があった。これは、海峡植民地での直接統治とは異なり、保護国化であり、スルタンを頂点にした既存の伝統的支配構造を維持して間接的に統治していくというものであった。保護国の拡大に伴い、イギリスは支配の効率化に迫られ、スンガイ・ウジョン、ジェレブ、その他隣接地域をまとめて、1895年にヌグリ・スンビラン（9つの国の意味）とした。これは当該地域の移民の故郷である西スマトラの統治構造に範を取ったとされる。同様な形態を保護国全体に及ぼそうとしたのが、1896年のベラ、スランゴール、ヌグリ・スンビラン、パハンの4つの国々からなる連邦マレー諸国（Federated Malay States）の形成である。連邦マレー諸国では、

各国のスルタンと理事官の上に、連邦マレー諸国の最高責任者としてイギリス植民地行政官である統監を置き、行政システムの集権化を図った。

保護国化、特に連邦マレー諸国の形成以降、イギリスは近代学校の設立を積極的に進めていく。イギリスのマラヤに対する基本的な教育方針は、民衆に対して現地語（マレー語）による教育を提供する一方で、伝統的支配層などの一部の者に英語による教育を提供するというものであった。1898年の報告書のなかで、次のように記されている（ARFMS 1898, p.7）。

われわれが望むのは、一部の学校で可能な限り徹底して英語を教え込むことである。その学校では教授言語を英語とし、その教育目的は英語知識の必要な職へ男子が就職することである。そして、大部分の者に対しては現地語学校である。

3R'sを中心にしたマレー語教育を提供することで、マレー人民衆を農民や漁師として農漁村にとどめ置くのが、イギリス植民地官僚の考えであった。一方、伝統的な支配構造の維持という目的にもとづいて、マレー人の王族や貴族を植民地行政システムに組み込む必要性を認識しており、一部のマレー人に対しては植民地の公用語である英語での教育を提供していた。また、イギリスの植民地統治の観点からみた利便性から、連邦マレー諸国では、マレー語学校や英語学校での教授言語と教科としてのマレー語は、アラビア文字表記のマレー語（ジャウィ）ではなく、ローマ字表記のマレー語が使用された。

マレー人王族と貴族の子弟のための学校として1905年に設立されたのが、クアラ・カンサル（マレー・カレッジ）（MCKK）である。この学校は、イギリスのパブリック・スクールをモデルにした寄宿学校で、エリート人材の育成を目的とした特別な教育を提供していた。ベラ、スランゴール、ヌグリ・スンビラン、パハンの連邦マレー諸国の王族や貴族の子弟だけでなく、クダ、ブルリス、クランタン、トレンガス、ジョホルの王族と貴族の子弟も就学していた。

海峡植民地と連邦マレー諸国が形成されるなか、クランタンは1909年までシャムの属国であった。クランタン政府は、1812年よりシャムに対して3年に一度、ブンガ・マス（金の花）を朝貢していた。1880年代以降、マラヤのイギリス人植民地官僚は、クダ、ブルリス、クランタン、トレンガスへの進出を企図する一方で、英国本国政府はシャムとの関係を重視し、それらの諸国に支配を拡大することには消極的であった

(Mohamed B. Nik Mohd. Salleh, 1974, pp.34-41)。しかし、1903年よりクランタンのラジャ（王）に対してイギリス人顧問が置かれるようになり、1910年にイギリス・シヤム条約（1909年）にもとづいて、クランタンはシヤムから英領マラヤに組み込まれた。統監の下に置かれた連邦マレー諸国に比して、クランタンは、一定の自立性を保持し、クダ、ブルリス、トレンガス、ジョホールとともに非連邦マレー諸国（Unfederated Malay States）と総称された。

クランタンで最初のマレー語学校が設立されたのは、1902年のイギリス・シヤム条約にもとづいて2人のイギリス人（W.A. Graham と H.W. Thomson）がラジャに対する顧問としてコタ・バルに着任した1903年である。1903年のイギリス人顧問の報告書に、次のような記述がある（Awang Had Salleh, 1980, p.5）。

小額のまとまったお金があり、一校の学校が今年設立された。王（Yang Maha Mulia）は、民衆に対して良い教育を提供するための機関となるように深い関心を抱いている。

この学校に対して、クランタン王国は関心を持っていた。また、イギリス人顧問による報告書への記載から、この学校の設立にイギリス人顧問が関係していたと考えられる。この学校は3学年あり、基本的には3R's（読み・書き・算数）が教えられていた。具体的に科目をみると、第1学年では読み・書き・算数、第2学年では読み・書き・算数・書きとり、第3学年では読み・書き・算数・書きとり・地理・英語となっている（KAR 1909, p.10）。また、第3学年の英語は、1909年に導入された。1909年と1910年には、この学校から各1人、マレー・カレッジに転校している。また、クランタンにおいて近代学校が発展していくのは、1910年以降である。1910年には、パシル・マス（Pasir Mas）、カンブン・ラウト（Kampung Laut）、トゥンパット（Tumpat）にマレー語学校が開校された（KAR 1910, p.13）<sup>3）</sup>。そして、1918年には、コタ・バルとパシル・プテ（Pasir Puteh）地方に13校、ウル・クランタン地方に3校の学校が運営されていた（KAR 1918, p.9）。つまり、クランタンにおける近代学校の発展は、イギリスによる植民地支配の強化とともに始まった。

## 1.2 伝統的な学習機関ポンドック

イスラームはマレー半島に14世紀までには伝わった。イスラームの伝来以降、イスラーム学習はマスジド（礼拝所）やスラウ（小礼拝所）で行われてきた。

マスジドやスラウでは、5～6歳になった子どもに対してアラビア文字、クルアーンの読誦、礼拝の所作、さらにクルアーンのなかの短い章句の暗誦がトッ・グル（教師）から教えられていた。

19世紀に入り、クルアーン学習を修了した者が学習を継続するための機関として、ポンドックが設立されるようになる。ポンドックとは、トッ・グルの下で学習するために、トッ・グルの家やマスジドの周りに学習者が小屋を建て、そこに住みイスラームの学習を行う。ポンドックでの教育は無償で、試験や証書もない。また、学習の速度は、学習者の努力次第であった。このようなポンドックの形態は、スマトラ島の北部や南部タイのパタニの学習機関から採り入れられたといわれている（Roff, W., 2009, p.118）。

クランタンで最初のポンドックは、トッ・ブライ・チョンドン（Tok Pulai Chondong, 本名 Abdul Samad Faqih Abdullah）によって1820年に設立されたものである<sup>4）</sup>。トッ・ブライ・チョンドンは1792年に生まれ、パタニのポンドックで教育を受けた。その後、メッカに渡り、学習を継続する。そして、メッカで、パタニ出身のシェイク・ダウド・アルファタニに師事したといわれる。そして、クランタンに戻り、ポンドックを開校した。このポンドックでは、ウスルディン（神学）、フィクフ（法学）、タサウフ（神秘主義）を教えた。1840年、さらなる知を求めて、メッカに再び渡った。

トッ・ブライ・チョンドンの師とされるシェイク・ダウド・アルファタニ（?～1847年）は、タイ南部パタニのイスラーム学者である。彼は家族から基礎的なイスラーム教育を受けた後、アチエで2年間、メッカで30年間、メディナで5年間学習した。そして、フィクフ（法学）、ウスルディン（神学）、タサウフ（神秘主義）などに関する多数の著作をマレー語で書くと同時にアラビア語からマレー語に翻訳を行った。これらの著作は、マレー世界の伝統的なイスラーム教育機関で教科書として用いられた。また、彼のもとで学習した者がクダやトレンガスでポンドックを設立した<sup>5）</sup>（Ibrahim Narongraksakhet, 2010, pp.1-11）。

19世紀には、ポンドック・ブライ・チョンドン（Pondok Pulai Chondong）の他に、クランタンにはポンドック・クバン・パス（Pondok Kubang Pasu）、ポンドック・スンガイ・ブドゥール（Pondok Sungai Budur）、ポンドック・カンブン・バングル（Pondok Kamupung Banggul）、ポンドック・トゥアン・パダン（Pondok Tuan Padang）などが設立された。そして、これらのポンドックで学習した者が、19世紀半ば

から20世紀初めにかけて、ポンドック・トゥンパット（Pondok Tumpat）、ポンドック・バチョック（Pondok Bachok）、パシル・マス（Pasir Mas）にあるポンドック・パダン・ジェラパン（Pondok Padang Jelapang）、ポンドック・マチャン（Pondok Macang）、ポンドック・パシ・トゥンプ（Pondok Pasir Tumbuh）、ポンドック・ブヌ・パヨン（Pondok Bunut Payong）を設立した（Yaacob, 2011b, p.2）。

クランタンのポンドックは、マレー世界のイスラーム教育の一つの中心地であった南部タイのバタニ、イスラーム共同体の中心地であるメッカとメディナとの学習ネットワークのなかで、成立・発展した。そして、植民地支配と同時に近代化の波が押し寄せてくるなかで、ポンドックとは異なる近代学校教育の諸要素を取り込んだイスラーム教育機関がクランタンの地に現れてくる。

### 1.3 トッ・クナリ

マレー半島で近代学校が発展していく一方で、イスラーム教育機関の改革も進められていく。そして、ポンドックとは異なる形態のイスラーム教育機関マドラサがマレー半島で設立されていく。マドラサは、年齢と学力にもとづく学年制、試験による進級、固定された時間割、証書の発行などの特徴をもつ（Rosnani Hashim, 2004, p.34）。

このような改革を推進したのは一般的に、カウム・ムダ（kaum muda：若い集団）と呼ばれるイスラーム改革思想の支持者とされる。その代表的な人物は、サイド・シャイフ・アフマッド・アルハディ（Sayid Shaykh Ahmad al-Hadi）である（ロスナニ・ハシム、2010, pp.37-45）。彼は、1867年にアラブ人の父とマレー人の母のもと、アラブ系のブラナカン（現地化した人々）としてマラッカに生まれた。名前の最初にサイドが冠されていることからわかるように、預言者ムハンマドの血をひく子孫である<sup>6)</sup>。

サイド・シャイフ・アフマッド・アルハディは、トレンガヌのポンドックで教育を受けた後、メッカで数年間学習を継続した。そして、1895年にエジプトに渡り、イスラーム改革運動の指導者の一人、シャイフ・ムハマド・アブドゥに師事する機会を得た。帰国後、改革派雑誌『アルイマーム』（1906-1908年）を発行する一方で、シンガポールにマドラサ・アルイクバル（Madrasah al-Iqbal：1907年設立）、マラッカにマドラサ・アルハディ（Madrasah al-Hadi：1917年設立）、ペナンにマドラサ・アルマシュフル・アルイスラミヤ（Madrasah al-Mashhor al-Islamiyah：1919年設立）を

設立した。シンガポールとマラッカでの試みは失敗に終わるが、ペナンのマドラサ・アルマシュフル・アルイスラミヤは成功を収める。

しかし、クランタンの動きは、このような海峡植民地の動向と同じではない。後述するように、クランタンではコタ・バルに1917年マドラサ・ムハマディヤ（Madrasah Muhammadiyah）が設立される。この設立を推進した人物は、トッ・クナリ（Tok Kenali, 本名 Muhammad Yusof bin Ahmad）である。

トッ・クナリは、1868年にコタ・バルから約7キロ離れたクナリ村で生まれた。6歳の頃、叔父のもとでクルアーン学習を修了し、読み書きの基礎能力を身に付けていた。10歳の時からコタ・バルのマスジド・アルムハマディまで毎日、徒歩で行き、アラビア語とイスラームの学習（pengajian）を始めた。そして、18歳の時、メッカに留学した。メッカ留学中には、バタニ出身でイスラーム改革思想の支持者であるシャイフ・ワン・アフマッド・アルファタニなどに師事していた。トッ・クナリは、シャイフ・ワン・アフマッド・アルファタニとともに1903年にエジプトヘジャラー（聖墓巡礼）した際に、サイド・シャイフ・アフマッド・アルハディに影響を与えたシャイフ・ムハマド・アブドゥに会ったといわれている。そして、トッ・クナリは、22年間メッカで学習した後、1908年にクランタンに帰国した。

1910年に、トッ・クナリは故郷のクナリ村にポンドックを設立した。そこでは、アラビア語、アラビア語文法、タウヒード（神学）、フィクフ（法学）、タフシール（クルアーン注釈）、タサウフ（神秘主義）を教えていた。このポンドックには、マレー半島の各地からだけでなく、スマトラ、バタニ、カンボジアなどの地からも生徒が集まり、300名程の生徒がいた。そして、1915年にスルタンにより後述するイスラーム宗教・マレー慣習法評議会（MAIK）のメンバーに任命される一方で、1917年からマスジド・ムハマディで宗教教授を担当した。さらに、MAIKの教育部長に任命され、マドラサ・ムハマディヤの発展に貢献した。

MAIKの設立は、クランタンで拡大する植民地支配への一つの反応であった。1903年にイギリス人顧問がクランタンに派遣されて以降、西洋モデルにもとづく行政システムが導入された。そして、そのような西洋式行政システムの移植による一方的な近代化ではなく、自分たちの伝統、つまりイスラームに沿って近代化を進めるために創設されたのがMAIKであった（Roff, 2009, pp.188-199）。

トッ・クナリはクランタンにおいて、伝統的な教育

機関のボンドックの発展だけでなく、近代学校とイスラーム教育との節合を図ろうとするマドラサの発展にも貢献した。海峡植民地でマドラサの導入に専心したサイド・シャイフ・アブマッド・アルハディとトッ・クナリの差異は、クランタンの強固なイスラーム教育の伝統、海峡植民地と非連邦マレー諸国の植民地支配行政システムの違いの一端を示すものである。

## 2. MAIK 設立 (1915) から PAS の政権復帰 (1990) まで

### 2.1 植民地期 (独立前) の MAIK による学校制度 2.1.1 マジュリス MAIK 設立とマジュリス学校

1915年12月24日、クランタンでスルタン・ムハマド4世の布告によって、イスラーム宗教・マレー慣習法評議会 MAIK (Majlis Agama Islam dan Adat Istiadat Kelantan) が設立された。設立に与ったのはトッ・クナリである。MAIK (マジュリスと記すこともある) はクランタン王国から独立した組織として存在し、その役人もクランタン王国によって権限が与えられているわけではなかった。MAIK の役割としては、ザカット (義務とされる喜捨) の徴収、マスジド (モスク) の建設、宗教学校 (アラビア語とマレー語) の設立、教育 (英語教育を含む) 発展の維持、アラビア語キタブ (イスラームの教義書) のマレー語への翻訳、ワクフ (寄進財産) と墓地の管理など宗教にかかわる問題すべてに責任を持った。

MAIK による最初の学校設立は1917年のマドラサ・ムハマディヤ Madrasah Muhammadiyyah である。設立初期のマドラサ・ムハマディヤでは三つのクラス、すなわち1級1クラス、2級2クラスに分けられた。教科は読み、書き (作文)、基礎的な算数、ファルドゥル・アイン (イスラーム教徒個別の義務)、作文であった。文字は基本的にジャウイ (アラビア文字表記のマレー語) が用いられた (Abdul Razak Mahmud 2010, p.104)。ここで用いられたテキストは「安寧の道」(Jalan Sejahtera)、「生活の精神 (Semangat Kehidupan)」、「ムラユの壺 (Jambangan Melayu)」、「知識のキール (竜骨) (Lunas Pengetahuan)」、「満月の光 (Cahaya Purnama)」などであり、その教材の多くは MAIK によって印刷・出版されたものであった。マドラサ・ムハマディヤの生徒数は1917年12月31日時点で310名、教師は7名であった。上記の科目に加えて、初級段階ではアラビア語と英語が教授された。英語の教授は毎晩行われたが、生徒は徐々に減少し、1917年末にはわずか28名になった。(Abdul Razak Mahmud 2010, pp.104-105) 英語教育に関しては、MAIK 自ら

1918年10月にクラスを開設している。当初はスタンダード0からスタンダード2までの3クラスで、午前8時から11時まで授業が行われた。英語クラスの生徒には、マドラサ・ムハマディヤで午後1時から4時までの間、宗教とマレー語を学ぶ機会も提供された。(Abdul Razak Mahmud 2010, p.62)

その後、1920年までに MAIK はバシル・プテ (Pasir Peteh)、バシル・マス (Pasir Mas)、カンブン・クタン (Kampung Kutun) に各1校のマドラサを開設した。1920年の時点でそれぞれ教師数と生徒数がバシル・マス2名、60名、バシル・プテ2名、47名、カンブン・クタン1名、60名であった。しかし、1924年に財政的な問題 (マスジド・ムハマディの改築) からこれら3校はすべて閉鎖され、MAIK の学校はコタ・バルのマドラサ・ムハマディヤだけになった。(Abdul Razak Mahmud 2010, pp.108-109)

1930年代から第二次世界大戦が始まる1941年12月までの間に MAIK はさらに3校の学校を設置した。それは1931年にマスジド・ムハマディ (ムハマディ・モスク) の新しい建物が作られたあと、財政状況が好転し、新たな学校建設につながったとされる。まず最初に1932年2月16日にマドラサ・ムハマディヤ (ムラユ) に女子部が開設された。この女子部の開設にともない、学校名称がマドラサ・ムハマディヤ (ムラユ) 男子 Madrasah Muhammadiyyah (Melayu) Lelaki、マドラサ・ムハマディヤ (ムラユ) 女子 Madrasah Muhammadiyyah (Melayu) Perempuan となった。括弧内のムラユは、マレー語を教授言語とすることを示す。この二つの学校は、学校名称としては区別されたが、授業が行われた場所は同じで、旧 MAIK の建物の1階であった。(Abdul Razak Mahmud 2010, p.111)

同時代に開設された2番目の学校がアルマドラサ・アルムハマディヤ・アルアラビーヤ al-Madrasah al-Muhammadiyah al-Arabiyyah である。この学校は、1937年4月1日に75名の生徒と3人の教師でスタートした。第二次大戦前だけでなく戦後も独立に至るまで、この学校は MAIK の学校教育事業の頂点とみなされた。MAIK によって設立された3番目の学校が、バシル・プテのマドラサ・イブラヒミーヤ Madrasah Ibrahimiyah で、1938年1月1日に設立された。この学校はカンブン・パダン・パッ・アマット Kampung Padang Pak Amat に設立され、名前は放スルタン・ムハマド4世の子 YTM Tengku Ibrahim にちなんだ。当時、彼は「ラジャ・クランタン」の称号を与えられ、マジュリスの長 Yang Dipertua Majilis に任ぜられた。このマドラサの当初の生徒は25名、教師1名で

あった。(Abdul Razak Mahmud 2010, p.116)

この4校に加えて、1943年から1944年にかけて6校の民間宗教学校がMAIK系の学校になった。トゥンパットのマドラサ・ファラヒア Madrasah Falahiah, バシル・マスのマドラサ・アフマディヤ・アラビヤ Madrasah Ahmadiyah Arabiyyah, パチョックのニバーのマドラサ・ヤクビヤ Madrasah Ya'kubiah, ラボックのララン・ルアスのマドラサ・ディニヤ Madrasah Diniyyah, チェラン・ルクのマドラサ・イスマイリーヤ Madrasah Ismailiyyah, パチョックのプリス・クブル・ブサールのマドラサ・アミール・インドゥラ・プトラ Madrasah Amir Indera Petraであった。これらMAIK系の民間宗教学校6校を管下に加え、MAIKの学校は1945年までに計10校となった。(Abdul Razak Mahmud 2010, p.117)

### 2.1.2 アラビア語学校の創設と発展

これら10校の中で、特に注目されるのが1937年に設立されたアルマドラサ・アルムハマディヤ・アルアラビヤ al-Madrasah al-Muhammadiyah al-Arabiyyahである。この学校はMAIK学校の中で最初のアラビア語学校であった。スルタン通りのMAIKの旧オフィスの建物の裏におかれ、当初は2クラス、生徒は75名、教師は3名だけであった。

イスラーム教育の伝統として、マスジドにおけるハラカ形式のキタブ(イスラームの教義書・注釈書)学習がある。クランタンでも中央モスク(後のマスジド・ムハマディ)では、名の知れたウラマーのキタブ講義を聞くために多くの生徒が集まった。1917年にMAIKが設立されたとき、139名の生徒がクランタン国内・国外からきていた。1920年代のハラカは古くからのルースな形態であったが、1930年代初めから、キタブ学習の整備・段階化が図られる。それは12年間のプログラムを定め、4年毎に区切り、それぞれの段階にアラビア語(Arabiyyah)、宗教(Diniyyah)、一般知識(Pengetahuan Rampaian)の学習内容を配列した。アラビア語はナフ、サラフ、イムラック、ハット、マフザット、バラゴ、インシャ、アダブ・アル・ルゴであった。宗教はフィクフ、タフシール、タウヒード、ハディース、ウスル・アルフィクフ、ムストラ・ハディース、アフラック、タサウフ、ファライドである。そして、一般はタリーフ(歴史)、地理、算数、論理学、哲学、ミカート、ファラック、ハイアー、ロガリトマ、アダブ・アルバフスであった。(Abdul Razak Mahmud 2010, p.90)しかし、このシステムは現実には、完全には実施されることはなかった。ハラカ・ク

ラスの生徒数は、1931年の311名から1932年の197名へと激減する。しかし、1933年には258名、そして1934年末には279名と一時盛り返すが、その後は、1935年には179名、そして1939年には僅か80名に減少した。そして1939年にハラカ・クラスは、その場所をマスジド・ムハマディからジャミー・メルバブ・アル・イスマイリーに移転した。

他方、前記のアラブ学校アルマドラサ・アルムハマディヤ・アルアラビヤも1942年7月1日にメルバブ通りの新しい建物ジャミー・メルバブ・アル・イスマイリーに移転し、その後、ジャミーあるいはスコラ・アラブ・ジャミーの名で知られるようになった。ハラカ・クラスもアラブ学校も同じジャミー・メルバブで行われるようになるが、少なくとも1945年頃までは両者は別個に、別の運営組織のもとで実施された。その後、アラブ学校アルマドラサ・アルムハマディヤ・アルアラビヤは1956年に新しい建物に移転し、名称もアルマアハド・アルムハマディ al-Maahad al-Muhammadiに変更された。

1938年に同様な学校として、マドラサ・イブラヒミヤ Madrasah Ibrahimiyahが創設された。さらに1940年にバシル・プテ市内に女子生徒のための宗教学校が設立された。当初は仮の建物(マドラサ・ハジ・ニク・ウィル Madrasah Haji Nik Wil)で、2名の教師と10名の生徒でスタートした。この学校はのちにマドラサ・アルサニヤ・アルバナット Madrasah Al-Saniah Al-Banatと命名された(Wan Burhadin 1983, pp.96-97)。この学校は、1966年以前のクランタンで良く知られた女子宗教学校となった。(Wan Burhadin 1983, p.97)さらに1941年にコタ・バル市内に女子生徒のための学校が設置された。トゥンク・プトラ・スマラック Tengku Putera Semerak 通りの倉庫の2階で、教師1名、生徒7名でスタートした。この学校は、その後、マドラサ・アルナイム・アルバナット Madrasah Al-Naim Al-Banatと名づけられた(Wan Burhadin 1983, p.97)。1966年には、この学校はカンブン・ランガル Kampung Langgarの4エーカーの土地に自前の立派な校舎を持つ学校となった。生徒もマレーシア全域だけでなく、南タイを含む他の国からも来ていた。教師25名、生徒653名が学び、中等部も備えた。

## 2.2 第二次大戦後から独立までのMAIK学校

### 2.2.1 アラブ学校/宗教学校の発展

1946年にはMAIKの学校は14校になった。増加したのはマドラサ・アラビヤ Madrasah Arabiyyah Pangkalan Chengkal (パチョック)、スコラ・アガマ・

グアル・プリオク Sekolah Agama Gual Priok (バシル・マス)、スコラ・アガマ・カンブン・ムジュル Sekolah Agama Kampung Mujur (ジェラワット)、マドラサ・ジャミー・アラビヤ Madrasah Jam'i Arabiyyah (クアラ・クライ) が1945年に MAIK 学校に受け入れられた。1948年にマドラサ・ダルル・マアリーフ Madrasah Dar al-Ma'rif (ケダイ・ララット) が加わり、さらに1949年には、新設のマドラサ・シャムス・アルマアリーフ Madrasah Shams al-Ma'arif (プライ・チョンドン) が新たに登録されて計16校になった。(Abdul Razak Mahmud 2010, p.117)

しかし、1951年に MAIK はマドラサ・イブラヒミーヤ (バシル・ブテ)、マドラサ・ジャミー・アラビヤ (クアラ・クライ)、マドラサ・ダルル・マアリーフ (ケダイ・ララット、コタ・バル) の3校を閉鎖した。バシル・ブテの学校は第二次大戦前の設立だが、クアラ・クライの学校は1945年設立、最後のケダイ・ララットの学校は1948年に設立されたばかりであった。1953年のマジュリス年報の学校一覧にマドラサ・イスマイリーヤ (チェラン・クル) は掲載されておらず、スコラ・アガマ・グアル・プリオクが1959年に閉鎖に追い込まれたことが報告に示されている。(Abdul Razak Mahmud 2010, pp.117-118)

民間の宗教学校としては1948年にカンブン・マチャンにマドラサ・ワタニヤ Madrasah Wataniah、メロールのカンブン・カユ・レンダシにマドラサ・マジディヤ Madrasah Majidiah、バシル・ブテのカンブン・バダン・スレダシにマドラサ・ディニヤー Madrasah Diniah が設立された。この中で、マドラサ・ワタニヤは1962年に中等部を設け、1966年には生徒数も374人を数えるまでになった。(Wan Burhadin 1983, p.97) 1949年から1959年までの間にマジュリスに登録された民間宗教学校は47校になり、さらに1966年にはこの数がニラム・プリの YPTIK (後述) を含めて134校になった。学校数は毎年、着実に増え、1959年14校、1961年16校、1962年17校、1963年20校、1964年13校、1965年14校が増加した。これら宗教学校の中の113校が州政府の財政援助をうけ、78校が教育省を通して中央政府の援助を受けていた。マレー現地語学校および英語学校については、開発の進んだマレー半島西岸諸州と比べると、クランタンは大きく遅れをとっていたが、宗教学校については逆により進んでいた。(Wan Burhadin 1983, pp.97-98)

## 2.2.2 アラブ学校のカリキュラム

1937年から1955年末まで、MAIK のアラブ学校はア

ル・マドラサ・アルムハマディーヤ・アルアラビヤをモデルに、イブティダイー Ibtida'i (初級) とサナウィ Thanawi (中級) に分けられた。イブティダイーは第1学年から第5学年まで、サナウィは第6学年から第9学年までで、サナウィを提供するのはアルマドラサ・アルムハマディーヤ・アルアラビヤだけであった。初級・中級段階それぞれに修了資格 (シャハダー) Syahadat が定められた。1956年にアラブ学校のシステムが改革され、イブティダイー (1年から3年)、イッダディ 'Idadi (4年から6年)、サナウィ (7年から9年) の3段階に分けられた。新しいシステムでは修了資格は第9年修了時のシャハダー・アルマアハド・アルムハマディ Syahadat al-Maahad al-Muhammadi だけになった。新しい科目としては、トゥルック・アル・タドリス Turuq al-Tadris、イルム・アルイジュティマ Ilmu al-Ijtima、イルム・アルナフス Ilm al-Nafs などの教育に関する科目の他、生徒のアラビア語能力を高めるために、アル・バラガ al-Balaghah とアル・アルヌス al-Nusus のようなアラビア語関係科目が加えられた。また、他にマレー語が加えられている。各科目の内容については、マジュリス学習局 Pejabat Pelajaran Majlis によって教師指導書としてアル・マナヒジ・アルディラシヤ al-Manahij al-Dirasiyyah が発行された。ちなみにアラビア語を教授言語とする学校で、第1学年から第9学年まで備えるのはマドラサ・アルムハマディーヤ・アルアラビヤだけであった。1966年の時点で第1段階から第9段階まで19クラスがあり、929人の生徒、22人の教師が在籍した。(Abdul Razak Mahmud 2010, p.125)

## 2.3 マラヤ連邦独立 (1957) 後のイスラーム教育の展開—アラブ学校制度の整備とイスラーム高等教育機関の創設

### 2.3.1 アラブ／宗教学校の中等部と高等教育への接続

イギリスが植民地支配下に収めたマレー半島地域は、シンガポールを除いてマラヤ連邦として1957年に独立を達成した。その後、1963年にはマラヤ連邦、シンガポール、サバ、サラワクでマレーシアが作られたが、2年後の1965年にシンガポールは分離している。教育については、1957年教育令、1961年教育法が出され、国民教育制度の確立が図られた。英語ストリームに限られた中等段階に、マレー語中等学校の増設がはかられ、英語で行われてきた学校資格試験にもマレー語による資格試験が導入された。

クランタンにおいて、MAIK の学校は1940年代末



には16校を数えたが、その後、減少し、1960年初めに8校になっていた。マドラサ・ムハマディが三つの学校に分けられ、すなわちムラユ男子、ムラユ女子、アラブの3校があった。他に、マドラサ・ファラヒヤ（バシル・ベカン）、マドラサ・ヤクビアー（ニバー、パチョック）、マドラサ・アラビヤ（バシル・マス）、マドラサ・アミール・インドラ・プトラ（プリス・グブル・ブサール、パチョック）、マドラサ・シャムス・アルマアリーフ（ブライ・チョンドン、マチャン）の5校をあわせて計8校であった。男子マドラサ・ムハマディ（ムラユ）と女子マドラサ・ムハマディ（ムラユ）は、マレー語を教授言語とする小学校で、7歳で始まる第1学年から第6学年までであった。この2校以外は、アラビア語を教授言語とする宗教中等学校もしくはアラブ中等学校であった。ちなみに、その後、1970年に男子マアハド・ムハマディ（ムラユ）と女子マアハド・ムハマディ（ムラユ）は閉鎖されている。（Abdul Razak Mahmud 2010, p.126, p.130）

アラブ学校／宗教学校も、マアハド・ムハマディ（アラブ）以外は第6学年（アル・ファスル・アッサデイス）までの学校であった。第6学年を修了したあとは、マアハド・ムハマディのサナウィ（中等）段階に接続した。サナウィ段階は3年間で修了資格、すなわちシャハダ・アルマアハド・アルムハマディを取得することができた。1961年にこの資格はカイロのアズハル大学の承認をえて、アズハル大学に進学できるようになった。（Abdul Razak Mahmud 2010, p.126）

1966年にマアハド・ムハマディ（アラブ）に女子生徒のためのサナウィ（中等）クラスが設置された。それまでマアハド・ムハマディ（アラブ）は男子部だけであり、アラブ学校の女子生徒は MAIK 系のどの学校を卒業しても、マアハド・ムハマディ（アラブ）のサナウィには進学できず、中等部のある他の学校、たとえばマドラサ・アルナイル・リルバナット Madrasah al-Naili al-Banat やコタ・バルのルンダン Lundang にあるアルマドラサ・アルヤクビア al-Madrasah al-Yakubiah などの学校に進学した。このような状況が変化するのは、1966年にマアハド・ムハマディ（アラブ）に女子の中等部が設けられてからである。同中等部ではサラマ・ハサン Salamah Hassan が女性教員（Ustazah）第一号に任命されたが、それ以外は男子部の教員が担当した。（Abdul Razak Mahmud 2010, p.127）

アラブ学校／宗教学校の振興のために、1963年にクランタン宗教学習奨学金委員会 Jemaah Biasiswa Pelajaran Agama Kelantan から4名分の奨学金が出された。この奨学金制度は以前から行われており、

1963年10月にはクランのコレッジ・イスラーム・ムラユ Kolej Islam Melayu 3名、アズハル大学 Universiti al-Azhar (カイロ) 1名に与えられた。それまでに奨学金授与者は累積で69名になっていた。内59名が勉学を継続中で、10名が修了していた。在学者は、コタ・バルのマアハド・ムハマディ、クランのコレッジ・イスラーム・ムラユ、エジプトのアズハル大学、メッカ、インドネシアのイスラーム大学などで学び、また修了した10名にはアズハル大学、ジョグジャカルタの IAIN (国立イスラーム宗教大学)の卒業生も含まれた。1963年には奨学金の採用者が計10名に増え、これまでで一番多くなった。内訳はコレッジ・イスラーム3名、マアハド・ムハマディ5名、アズハル大学1名、インドネシア・イスラーム宗教大学1名であった。奨学金の額はそれぞれ異なった。（Wan Burhadin 1983, p.95）

### 2.3.2 イスラーム高等教育機関 PPTIK の創設

1955年の選挙でバルティ・ブレイカタン Parti Perikatan が PAS を破った。PAS はその後、イスラーム指導者・教師を動員してキャンペーンを展開し、マラヤ連邦独立後の1959年選挙では勝利をおさめた。PAS は州政権の座についたあと1964年の総選挙でも勝利するが、クランタン川にかかる橋の建設で PAS は多額の負債を抱えることになる。クランタン川の橋は、1962年9月14日に着工し、1965年4月17日に完工している。そして1969年の総選挙では、宗教（イスラーム）教育の水準を向上させ、宗教教育センターを作ることを公約の一つに掲げた。イスラーム教育の発展は、将来の PAS を担う人材の育成と関わり、最重要の課題であった。（Wan Burhadin 1983, p.99）

クランタンでは、中等レベルの宗教学校卒業生が増加する一方で、国内のイスラーム高等教育機関の不足が深刻であった。マレーシア国内のイスラーム高等教育機関としては、1960年代半ばには、マラヤ大学イスラーム研究学科とコレッジ・イスラーム・ムラユが存在するだけであった。後者のコレッジ・イスラームはディプロマ・レベルだけであり、学士学位（イジャザー）につながるマラヤ大学に入学するにはマレー語および英語ストリームの学生と競争しなければならなかった。また、アラブの大学やインドネシアの大学に進学するには奨学金が不可欠であった。こういう状況からクランタンではイスラーム高等教育機関の創設が切実な課題となっていた。（Wan Burhadin 1983, p.100）

それが具体化するのには、1962年に在インドネシア・マラヤ学生会のイニシアティブで設置に関する覚書が

出されてからのことである。インドネシアでは1951年にPTAIN(国立イスラーム宗教カレッジ)が開設され、1961年にはPTAINとADIA(宗教公務アカデミー)を統合してIAIN(国立イスラーム宗教大学)が創設された。1963年以降、IAINおよびその支部学部がインドネシア各地に増設されていく。在インドネシア・マラヤ学生会の覚書がだされたのはこうした時期であった。前記のように、クランタンでもインドネシアのIAINに進学する生徒のために奨学金が用意されていた。マレーシア国内では、クランのコレッジ・イスラームが1955年に設立されていた。マラヤ大学にイスラーム研究学科が設置されるのは1959年で、それはマラヤ大学とコレッジ・イスラーム・ムラユとの公式の関係からもたらされた。実際の運営・管理は同カレッジが担い、アカデミックな事項に関してマラヤ大学評議会がかかわった。その後、同コレッジがユニバシティ・カレッジに昇格する計画に教育省の同意が得られるのは1968年になってからであった。そして1970年にマレーシア国民大学UKMが創設されたときに、コレッジ・イスラーム・ムラユは同大学のイスラーム研究学部Fakulti Pengajian Islamとなった。他方、コレッジ・イスラーム・ムラユ委員会が解散したあとは、マラヤ大学のイスラーム研究学科はマラヤ大学の評議会と委員会のもとにおかれた。

前述の覚書を受けて、1965年6月27日に12名のメンバーで構成されるクランタン・イスラーム高等教育センター運営委員会JPPPTIK(Jemaah Pengelola Pusat Pengajian Tinggi Islam Kelantan)が設置され、クランタン・イスラーム高等教育センターPusat Pengajian Tinggi Islam Kelantan(アラビア語ではMarkazud Dirasatil Islamiyah Al-Aliyah)が創設された。当初は、4年間のイスラーム法・法制学部(Kuliah Syariah Wal-Qanun)(マレー語ではFakulti Undang-undangan Perundang Islam)の一つの学部だけで始められた。受け入れる学生として二つのカテゴリーがあり、マアハド・ムハマディ(アラブ)の第9学年からの進学と、もう一つは卒業資格がアル・アズハルやコレッジ・イスラームに直接受け入れられない生徒たちであった。1965年9月15日に願書が配布され、259人の志願者(男性209人、女性50人)が入学を希望した。その中でクランタンからの志願者は101名、シンガポールからの志願者はわずかに3名であった。試験なしのカテゴリーからの志願者は1965年10月20日の面接で23名(含む女子1名)が選考され、さらに11月10日-11日の試験による選抜で20名、あわせて43名の一期生が選ばれた。36名の男子学生は寄宿舎に滞在し、7名の女子学生は

寄宿舎外の民家に滞在した。

1965年12月1日にニラム・ブリの王宮で教育が開始された。同王宮は、コタ・バルの市の中心からクアラ・クライに向かって約10キロのニラム・ブリのカンブン(村)にある。まもなく、1966年9月11日に、中等段階の新しい教育プログラムとしてマアハド・アルダワッ・ワルイママMaahad al-Daawah Wal-Imamah(マレー語名Maktab Seruan dan Pimpinan, 伝道・指導性学校)が設置された。これは、イスラーム法学部で学び始めた学生の間に大きな学力差が認められたために考えられたもので、予科としての性格をもつ。その目的としては(1)社会の指導者でイスラームを広める人材を育成する。(2)生徒がイスラーム大学に進学し、ウスルディン(イスラーム神学)を学ぶための準備を行う(ウスルディン学部はPPTIKでも将来、設置を検討)。(3)マアハドを卒業する生徒は資格(シジル)を取得して、PPTIKのシャリア・カヌン学部(法学部)に直接進学することができる。この予科的なマアハドへの入学者については(1)卒業資格がアズハル大学による認定を受けている宗教中等学校の7年修了者(面接のみ)、(2)(1)以外の宗教中等学校7年修了者(一定の試験を課す)、(3)委員会による特別試験の合格者の三つのカテゴリーが決められ、初年度は80人(男子72人、女子8人)の学生を受け入れた。(Wan Burhadin 1983, p.109)

### 2.3.3 YPTIKのカリキュラムと発展

1968年にイスラーム教育財団法(Enakmen Yayasan Pengajian Tinggi 1968)が成立し、クランタン・イスラーム高等教育センターPPTIKを管理するイスラーム高等教育財団YPTI(Yayasan Pengajian Tinggi Islam)という名称の組織が作られた。これにともない、PPTIKもYPTIK(Yayasan Pengajian Tinggi Islam Kelantan)と名称が変えられた(Wan Burhadin 1983, p.18)。この名称変更の理由は、高等教育センターだとセンターにかかわる活動に限定されるが、高等教育財団(ヤヤサン)の場合は、幅広い活動を包摂できるというのが一つである。さらにイスラミック・センターという名称は一般に非イスラーム圏で用いられる名称であって、イスラーム国家の中にあってセンターという名称は適切ではないという理由もあげられた。(Wan Burhadin 1983, p.118)

法学部(シャリア・カヌン学部)の各学年で学習する科目は以下の通りである。

(1年) フィクフ、ウスル・フィクフ、タフシール・

アヤット・アヤット・フクム, ハディース学, 法学入門, イスラーム史, アラビア語, マレー語, 英語

(2年) フィクフ, ウスル・フィクフ, タフシール・アヤット・アヤット・フクム, ハディース学, 法律, アラビア語, マレー語, 英語

(3年) フィクフ, ウスル・フィクフ, タフシール・アヤット・アヤット・フクム, ハディース学, 比較プサカ (pusaka perbandingan), 法律, 経済, アラビア語, マレー語, 英語

(4年) フィクフ, ウスル・フィクフ, タフシール・アヤット・アヤット・フクム, ハディース学, 比較フィクフ (Fiqh perbandingan), 家族法, 法律, ムアマラー・ハディース, アラビア語, 英語 (Wan Burhadin 1983, pp.123-124)

YPTIK のカリキュラムについては, 若干の改革が行われた。アラビア語は開学時は (1) ナフ・サラフ (文法), (2) アラブ文学・歴史, (3) パラゴ (修辭), (4) 作文 *Karangan* であったが, その後, アラブ文学が削られ, かわりに「ヌスス *Nusus*」(テキスト) が含められた。これはアラブ文学史の中から, 新旧のテキストを学ぶ(研究する)ものである。アラブ文学を知るだけでなく, アラブ文学のテキストを評価し批判する必要があることから導入された。(Wan Burhadin 1983, p.125)

制度面では1969年に2年間の予科 (Pra-kuliah) が導入された。予科は1971/1972年度から1年間に短縮され, 学期の始期も1971/72年度から5月になった。授業時間は当初30時間だったのが, 1973/74年度から24~26時間に削減された。また, 教授言語については, 宗教に関係する科目はアラビア語で教えられたが, それ以外は英語をのぞいてマレー語で教授された。

学生数は開学時は43名であったが, その後, 1970年229名 (45名), 1971年280名 (69名), 1972年325名 (92名), 1973年469名 (138名), 1974年459名 (141名) (括弧内は含まれる予科の生徒数) と増加をとげた。しかし, 一つの問題は学年が進むにつれて学生数が減少する傾向にあった。1970年の1年生は当初107名であったが, 1年が経過した1971年の2年生は69名に, 1972年の3年生は57名に, 1973年の4年生は30名へと学年が上がるにつれて減少した。これは一つには YPTIK の学士学位の認定と大きくかかわった。(Wan Burhadin 1983, pp.126-127)

## 2.4 ブミブトラ優遇政策 (1971~) 下におけるイスラーム教育—連邦の影響力増大とイスラーム教育制度の調整—

総選挙の結果をめぐって1969年5月13日にクアラルンプールで起こった人種暴動はあらためてマレーシアにおける民族問題の深刻さを露呈させた。非常事態宣言を経て, 新経済政策 NEP が発表され, 貧困の撲滅と人種間の不平等の是正が目指された。その施策の鍵になったのが, ブミブトラ (マレー系およびその他の先住民族) 優遇政策である。国民教育制度も大きく変革がはかられ, 国家語であるマレー語を強化するために, 英語を教授言語とする国民型学校をマレー語を教授言語とする国民学校に年次進行で転換し, 高等教育においては人種別割り当て (クォーター) 制を導入して, マレー系にとっての高等教育機会を相対的に拡大していくことになった。

### 2.4.1 YPTIK の学士認定問題

連邦政府から1971年大学・カレッジ法が出されるが, これが YPTIK に学位認定に関わる大きな問題をもたらした。それは大学・カレッジ法第24条1項に合致しないことから, YPTIK 卒業の学士が連邦政府では学士として認められないという事態を招いた。

同法24条第一項は次の通りである。「この法律に従って設立された高等教育機関 (財団) 以外に, 何人も「大学」をあるいは「カレッジ・ユニバシティ」のステータスをもつ高等教育機関を設立し, 管理し, 維持することはできない。」

この規定によって, YPTIK は大学あるいはユニバシティ・カレッジのステータスを持つことはできず, 学士学位 (イジャザ) を出せなくなった。それゆえ「暫定学士 (ijazah sementara)」としたが, それはイジャザ (学位) としてではなく資格 (シジル *sijil*) としてしか見られないものでもあった。この状況に対して, YPTIK はまず外国の大学による学士学位認定を目指した。

YPTIK の代表団が1972年9月-10月に支援・支持を求めて中東をまわった。サウジ・アラビアのファイサル国王は, すでにジェッダに拠点のある「イスラーム界委員会」*Lembaga Alam Islam* に指示し, YPTIK に関心と支援をむけるようにしていた。エジプトのアズハル大学は1971年から5年間で20名の YPTIK の生徒に奨学金を与えることを約束した。また, この時に13名の YPTIK 卒業の学士がアズハル大学の修士課程で学んでいた。アズハル大学は2名の講師派遣を約束し, インドネシアも同様に講師派遣を約束した。また,

それらの大学で YPTIK 学士が大学院に受け入れられた。イラクの大学も 7 名の奨学金を用意し、YPTIK の学士が進学できるようにした。国内では、1972年にマラヤ大学が（完全な認定ではないが）YPTIK の 5 名の学士を同大学の教育ディプロマ課程に受け入れた。（Wan Burhadin 1983, pp.129-130）

他方、1971/1972年度に YPTIK は、州内のイスラーム宗教教師の不足に対応して、新たに「教育ディプロマ」コースを新設したが、不人気で僅か 1 年だけで、1972年には廃止された。上記のように暫定学士の場合、教育ディプロマを取得しても正規の教職に就けなかったからである。教職を希望する YPTIK 卒の学士は、マレーシア政府で同等認定しているアイン・シャム Ain Syam のような中東の大学に進学した。（Wan Burhadin 1983, p.131）

#### 2.4.2 学校卒業資格制度—連邦の一般教育資格と州の宗教教育資格

1968年にクランタン宗教学校資格試験委員会 Lembaga Peperiksaan Sijil Sekolah-sekolah Agama Kelantan が創設された。これは州内の宗教学校の卒業資格の価値を統一するために設置された。多くの宗教学校は MAIK の制度とカリキュラムに則って教育を行っていたが、卒業資格が同等に認められていたわけではなかった。たとえば、マアハド・ムハマディの卒業資格は大学入学要件と認められたが、他の同じレベルの学校の卒業資格は同等と認められていなかった。

また同じ1968年に、マジュリス教育・学校状況調査整備委員会 Jawatankuasa Mengkaji dan Menyusun Kedudukan Pelajaran/Persekolahan Majlis が設置された。1965年以降、MAIK の学校は衰退を経験していた。1965年時点で MAIK が運営する学校は 8 校、MAIK の制度とカリキュラムのもとに監督下に置かれた 127 校の民間宗教学校 sekolah agama rakyat があり、11,105 名の生徒が学んでいた。それが 1969 年には 85 校の学校、生徒が 10,226 人へと減少した。（Abdul Razak Mahmud 2010, p.132）

1970年に先の状況調査整備委員会は調査報告を発表した。この調査報告の結果にもとづいて、1971年にクランタン州宗教学校新システムが導入された。新しい制度は、国家の資格試験制度に対応するものであった。マレーシア教育省が管轄する連邦の学校では、中等学校 3 年で下級教育資格（LCE または SRP）、中等学校 5 年でマレーシア教育資格（MCE または SPM）、第 6 年級上級（中等学校 7 年）でマレーシア学校教育高等資格（HSC または STPM）を取得することになっ

ていた。MAIK の学校で、従来からの宗教教育の資格とともに、この連邦教育省の一般教育資格も取得できるように改革された。宗教資格については、中等学校 4 年で宗教中等資格 SMU (al-Syahadat al-Rabi'ah al-Tsanawiyah)、第 6 年級下級（中等学校 6 年）で宗教高等資格 STU (al-Syahadat al-Diniyyah al-'Atiyah) を取得できるようなカリキュラム編成が行われた。（Abdul Razak Mahmud 2010, p.132）

新しい制度は、当初はコタ・バルのマアハド・ムハマディでのみ完全に実施された。しかし、多くの学校は中等学校 5 年までで、第 6 年級が実施されるのは 1970 年代末に、これらの学校が州政府に移管されて、クランタン・イスラーム財団に管理されるようになってからである。しかし、この制度改革が行われたことによって、生徒たちは宗教教育資格を取得し、中東の大学に進学できるようになった。カイロのアル・アズハル大学、マディナのジャミヤ・アルマディナ・アルムナワラ、リヤドのジャミヤ・イブヌ・サウド、その他、クウェート、ヨルダン、スーダンの大学などに進学した。（Abdul Razak Mahmud 2010, p.137）他方、新しいシステムの導入以後、学校教育に関する MAIK の経費が増大していった。新しい制度の導入と同時に、地方の学校からコタ・バルのマアハド・ムハマディに接続できるようにし、教師の給与スキームを整備し、よりよい学校設備を整えた。費用捻出のためにマアハドの生徒に授業料を課したが、反対にあつてうまくいかなかった。（Abdul Razak Mahmud 2010, p.137）

#### 2.4.3 MAIK から宗教学校局への移管

1973年にクランタンでは、PAS と国民戦線（バリサン・ナショナル）の連立政権が成立した。そして、宗教学校を監督するための特別の部局を設置するようという提案が州政府になされた。その部局は 1974 年 7 月 1 日にクランタン宗教学校局 JASA (Jabatan Sekolah-sekolah Agama Kelantan) と名付けられ、YPTIK Nilam Puri のもとに置かれた。JASA は事務局をコタ・バルのルンダンにあるヤクビヤーの建物に設け、YPTIK 評議会 (Majlis Yayasan Pengajian Tinggi Islam Kelantan) に責任を負う管理委員会によって運営された。学校の移管は 1976 年 7 月 29 日のクランタン州のマジュリス・ムシャワラで承認され、同年 10 月 1 日に実施された。

JASA への移管の背景としては、次のような状況が指摘されている。

1. 1960年代末まで施行されていた宗教学校教育の制度は、第二次大戦後以来の古いものであり、時代

の発展とニーズに対応できなくなっていた。

2. 宗教学校で出される資格に経済的な価値がなかった。
3. 予算・財源が限られたのに加えて、学校の運営・管理が適切ではなかった。
4. 教師は訓練を受けておらず、長く戦にとどまらなかった。宗教学校教師の多くは、政府の学校や、給与のより良い他のところに戦が見つかるまで、一時的に宗教学校で教えただけであった。(YIKのHP)

第一段階で移管されたのは以下の6校であった。すなわち、マアハド・ムハマディ (コタ・バル)、マドラサ・ファラヒヤ (バシル・ベカン、トンパット)、マドラサ・アミール・インドラ・ブトラ (プリス・クボル・ブサール、パチョック)、マドラサ・ヤクビアー (ニパー、パチョック)、マドラサ・アラビア (バンダル・バシルマス)、マドラサ・シャムスル・マアリーフ (ブライ・チョンドン、マチャン) の6校である。MAIKの保護学校 *sekolah naungan* (所管学校) も移管された。保護学校というのは、その管理・運営がMAIKによって認められ、MAIKが編纂したカリキュラムを用いるが、他方で、個々の学校発展委員会によって、教師の任命と費用の支弁が行われる学校である。(Yaacob, 2011b)

同じ頃、連邦レベルでもイスラーム教育への関心が高まり、教育システムにおけるイスラームの制度化が進められてきていた。すなわち、1973年には連邦教育省のイスラーム教育ユニットがイスラーム教育局 (Bahagian) に昇格し、1975年には連邦の機関としてイスラーム教員養成カレッジが設立される。さらに1977年には民間宗教学校の連邦移管が行われ、各州で承認された11校が移管されて、連邦教育省管轄の宗教国民中等学校 (SMKA) となった。

#### 2.4.4 JASA からクランタン・イスラーム財団に (YIK)

1978年3月11日にバリサン・ナショナル BN-ブルジャサ Berjasa 政権がクランタンに成立したあと、クランタンの宗教学校の監督はJASAからクランタン州イスラーム教育財団 YPINK (Yayasan Pelajaran Islam Negeri Kelantan) に移された。ブルジャサは、PASによってなされた要求に失望した UMNO の説得のもとに、クランタン首相ムハマッド・ナシール Mohamad Nasir によって1977年に創設された政党である。翌1978年の総選挙では、クランタン州の36の議席のなかで、UMNO が23議席、ブルジャサが11議席を獲得し、

PAS は僅かに2議席になった。

宗教学校の監督部局は、クランタン州事務部 Pejabat Setiausaha の所管におかれたが、1979年法令第5号 (1979年3月22日発効) により、1979年6月1日に正式な部局となり、クランタン州イスラーム教育財団 YPINK の名称がつけられた。YPINK 設立の目的は下記の通りである。

1. ウンマ (イスラーム共同体) と国家のバランスをとるように、宗教教育・学習の水準を引き上げる。
2. この州の宗教学校を国内外の宗教学習センターに接続するように成長させ充実させる。
3. 円滑で有能な運営と管理を実現し、宗教学校が成長発展を遂げることを保障する。

(YIKのHP)

また、より広く独立した権限を与えるために、ニラム・プリのクランタン・イスラーム高等教育財団のシャリアとカヌン学部、ウスルディンとイジュティマ学部はマラヤ大学に統合され、マラヤ大学イスラーム・アカデミー Akademi Islam Universiti Malaya (AIUM) と名付けられたあと、1983年3月1日にクランタン州イスラーム教育財団はクランタン・イスラーム財団 YIK (Yayasan Islam Kelantan) に名称が変えられた。(YIKのHP) この名称変更とともに、クランタン・イスラーム財団はコタ・バルのルンガンにあったヤクビアの建物から、1983年6月4日にニラム・プリの YPTIK の暫定的な寄宿舎に移り、さらに1990年9月9日にマラヤ大学イスラーム・アカデミーのキャンパス内にあるニラム・プリ王宮の古い建物に移った。

クランタン・イスラーム財団 Yayasan Islam Kelantan は以下を管理運営することに責任がある。

1. クランタン州内の宗教／アラブ中等学校
2. ニラム・プリのアラブ言語センター Pusat Bahasa Arab Nilam Puri
3. パチョックのテロン・ガンディスのボンドック学習センター Pusat Pengajian Pondok, Telong Kandis, Bachok
4. コタ・バルのカンブン・シレーのトゥンク・アニス幼稚園 Tadika Tengku Anis, Kampung Sireh, Kota Bharu
5. 管理・運営のための財政 Kewangan untuk pengurusan dan pembangunan (YIKのHP)

#### 2.4.5 マラヤ大学イスラーム・アカデミー (Akademi Islam, Univesiti Melayu)

1981年4月1日に YPTIK はマラヤ大学に統合され、マラヤ大学イスラーム・アカデミー (Akademi

Islam Universiti Malaysia: AIUM) になった。イスラーム・アカデミーの設立目的は下記の通りである。

1. 大学段階で上記分野で継続して学習できるように、イスラーム学習に関心をもつ学生に対して教育機会を提供する。
2. 十分な責任をもち国家と社会の発展に向けて貢献しうる公務員、教育関係者や専門職になりうるような、イスラームの知識と精神をもつ卒業生を輩出する。
3. イスラームの教えを普及、発展させるという目的で、イスラームに関する研究の取り組みを奨励する。

マラヤ大学イスラーム・アカデミーは教授言語としてマレー語（マレーシア語）を使用した。そのため YPTIK の学士課程を認定していたアズハル大学は、認定の継続を認めなくなった。

その後、1996年1月にイスラーム・アカデミーとマラヤ大学人文・社会社会学部イスラーム研究科が統合され、マラヤ大学イスラーム研究アカデミー（Akademy of Islamic Studies, マレー語で Akademi Pengajian Islam）になった。同研究アカデミーはクアラルンプールのマラヤ大学のメイン・キャンパスとクランタン州コタ・バルのニラム・プリ地方キャンパスで構成される。前者が学部、大学院、研究の各部門で構成されるのに対して、ニラム・プリの地方キャンパスは、イスラーム研究基礎の学位前（pre degree）プログラムに重点がおかれる。この学位前プログラムの入学要件の一つが、マレーシア教育資格 SPM 試験を、マレー語と高等アラビア語を優秀な成績で合格したものである。また、高等アラビア語の優秀な成績は、サナウィ修了資格（Sijil Tsanawi）で代替できる。

### 3. 1990年以降のイスラーム教育の展開

本節では、1990年以降のクランタンにおけるイスラーム教育の展開を、1) スルタン・イスMAIL・ブトラ国際イスラーム・カレッジ（Kolej Islam Antarabangsa Sultan Ismail Petra: 以下、KIAS）の設立経緯と現状、2) クランタン・イスラーム財団（Yayasan Islam Kelantan, 以下 YIK）が管轄する学校の状況から考察する。

#### 3.1 KIAS の設立経緯と現状

##### 3.1.1 KIAS の設立経緯

1990年はクランタン州政府の与党に PAS が復帰した年であり、このことがイスラーム教育に新たな展開をもたらした。1991年、州政府はマアハド・アル

ダッワ・ワル・イマーマ（Maahad Al-Dakwah wal Imamah）、マレー語ではコレッジ・ダッワ・ダン・クビンピナン（Kolej Dakwah dan Kepimpinan, 日本語に訳すと「伝道・指導性カレッジ」）という名称の教育機関を設立した。イスラーム教育の展開におけるこのカレッジの意義は、アズハル大学のカリキュラムを使用し、アラビア語によるイスラーム学習を復活させたことにある。このためアズハル大学は、前述の YPTIK 時代と同じように、このカレッジでディプロマを取得して卒業した学生が、アズハル大学で学士を取得するための進学を認めた（Yaacob 2011a, p.10）。

1994年、カレッジの名称は、スルタン・イスMAIL・ブトラ国際イスラーム・カレッジ Kolej Islam Antarabangsa Sultan Ismail Petra（KIAS）に変更され、現在に至っている。そして当時の KIAS は以下の4つの分野、すなわちウスルディン（Usuluddin, 神学）、シャリア（Syariah, イスラーム法）、ダッワと指導性（Dakwah dan Kepimpinan）、アラビア語（Bahasa Arab）の分野で、イスラーム語学のディプロマ（diploma）を出した。その後プログラムは順次、増設されていった。

##### 3.1.2 KIAS の現状

2010年現在、KIAS は、ヤヤサン・クランタン・ダルルナイム（Yayasan Kelantan Darulnaim: YAKIN）が所有する一つの子会社（anak syarikat）である KIAS ダルルナイム（KIAS Darulnaim Sdn.Bhd）を通してクランタン州政府（Kerajaan Negeri Kelantan）によって設立された私立高等教育機関（Institusi Pengajian Tinggi Swasta: IPTS）である。前述したように KIAS の前身は1991年に設立され、そして1994年にはすでに KIAS に名称変更しているものの、マレーシア教育省によってカレッジとして認可（diluluskan）されたのは1998年11月12日のことであった（Prospektus KIAS 2007/2008:7）。

KIAS はコタ・バル市（Bandar Kota Bharu）中心から約12キロ離れたニラム・プリ（Nilam Puri）に位置し、クランタン・イスラーム財団、マスジド・カンブン・ラウト（Masjid Kampung Laut）、マラヤ大学イスラーム研究アカデミーとともに「知のゾーン」（Zone of Knowledge）を形成している（KIAS バンフレット 2010）。2011年3月現在の学生数は841名、教員60名、事務職員50名である。

##### 3.1.3 KIAS によって提供されるプログラム

2010年現在、KIAS によって提供されるプログラム

は、①学位プログラム、②ディプロマ・プログラム、③資格プログラムの3種類に分けられる（KIASパンフレット2010）。教授言語はアラビア語である。以下、それぞれについて簡単にみておきたい。

#### ①学士（Ijazah Sarjana Muda）プログラム

学士プログラムは8学期制で、ウスルディン（Usuluddin Dengan Kepujian、神学）とシャリア（Syariah Dengan Kepujian、イスラーム法学）の2つの優等学位プログラムが提供されている。このプログラムには、少なくとも2007/2008年度までは前半6学期をKIASに在籍し、後半2学期をエジプトのアズハル大学に在籍するトゥイニング・プログラムが導入されていた（Prospektus KIAS 2007/2008:8）。しかし現在は、クダ州にあるインサニア・ユニバーシティ・カレッジ（Kolej Universiti Insaniah: KUIH）との共同プログラムという形態をとることにより、海外留学をしなくても国内で学士学位が取得できるようになっている。KUIHとの連携が必要なのは、カレッジであるKIASでは単独で学位を出せないことによる。インタビューによれば、2011年にKIASは単独で学位を出せるユニバーシティ・カレッジへの昇格を申請しているとのことであった（Yaacob interview 2011）。

#### ②ディプロマ（Diploma）プログラム

ディプロマ・プログラムは6学期制で、7つのプログラム、つまり、ウスルディン（神学）、シャリア（イスラーム法学）、ダッワとキアダ（Dakwah Wal Qiadah、伝道と指導性）、アラビア語、イスラーム金融（Kewangan Islam）、キラアとタラヌン（Qiraat & Tarannum、読誦とイントネーション）、タフリーズ・クルアーン（Tahfiz al-Quran、クルアーン暗誦）が提供されている。このうち、最後の3つのプログラムは近年新しく設置されたプログラムである。さらに、イスラーム看護（Islamic Nursing）のプログラムの新設が予定されていたが、すでに供給が満たされているという理由でマレーシア連邦政府による認可が下りなかった（Yaacob interview 2011）。この他、工学（Engineering）プログラムの設置も計画中である。

#### ③資格（Sijil）プログラム

資格プログラムは3学期制で、ブンガジャン・イスラーム（Pengajian Islam、イスラーム研究）のプログラムが提供されている。このプログラムは研修を目的とする場合、人事院（Jabatan Perkhidmatan Awam: JPA）によりマレーシア学校教育高等資格（STPM）と同等と認められている。また、このプログラムの成績優秀者はKIASのディプロマ・プログラムの第2学期に編入が可能となっている。

### 3.1.4 KIASの特徴としての国際性

KIASの特徴としてここでは、機関名称としても強調されている国際性について、①学生の海外留学と海外からの留学生の受け入れ、②教員の海外留学歴から考察したい。

#### ①学生の海外留学と海外からの留学生の受け入れ

KIASの卒業生は、KIASで学んだ分野に応じてマレーシア国内のすべての公立高等教育機関（IPTA）に進学することが可能であると同時に、海外留学という選択肢も用意されている。現在、KIASが協定を結んでいる海外の留学先は以下の通りである。

表3.1. KIAS との協定大学

国	高等教育機関
ヨルダン	バイス大学（Al-Baith）、ヤルモウク大学（Al-Yarmouk）、ハシミア大学（Al-Hasyimiah）、ウルドゥニア大学（Al-Urduniah）
エジプト	カイロ大学
モロッコ	モロッコ国内の複数の大学
インドネシア	スルタン・タハ・サイフディン国立イスラーム宗教大学（ジャンビ） アル・ラニリー国立イスラーム宗教大学（バンダ・アチエ） イマム・ボンジョル国立イスラーム宗教大学（パダン）

出典：KIASパンフレット2010から作成

このうち、ヨルダンの大学への留学の場合、KIASで2年間を終えた学生ならばプレースメントテスト免除で進学することができる。この他、エジプトのアズハル大学との間にも交流協定が設けられている。また、インタビューによれば2010年現在、アチエに留学している学生は42人とのことであった。一方、2010年現在、35人の外国人留学生がKIASに在籍しており、その内訳はカンボジア、タイ、インドネシア、シンガポールである。原則として全学生のうちの10%は外国人留学生を受け入れることになっているが、現在は3.5%に留まっている。その理由は不明である。

ちなみにKIAS卒業生の就職先としては、教師と宗教省関係の公務員が多いが、近年イスラーム銀行の発展が著しいことから特にイスラーム法学プログラム卒業生は銀行への就職も増加しているとのことであった。

マレーシア（クランタン州）におけるイスラーム教育の発展に関する一考察

②教員の海外留学歴

KIASの国際性的特徴は、教員の海外留学歴にも表れている。ここでは2010/2011年の教員データ55名（非常勤教員5名を含む）をもとに考察したい。まず、教員55名の最終学歴についてみると、博士号取得9名、修士号取得24名、学士号取得21名、ディプロマ取得1名という内訳になっている。以下の表は、KIAS

の教員がディプロマおよび学位を取得した高等教育機関の内訳を、特に海外の教育機関に限定して示したものである。なお、ここでは最終学歴のみならず教員が修了したすべての教育機関を記し、人数は延べ人数を示した。

この表から、少なくともわかることは以下の2点である。第一に、KIASの少なくない教員が、主として

表3.2. KIAS 教員の卒業教育機関

学位等	高等教育機関	国名	人数
博士	イマム・ムハンマド・イブヌ・サウド大学（リアド）	サウジアラビア	1
	メディナ・イスラーム大学（メディナ）	サウジアラビア	1
	アズハル大学（カイロ）	エジプト	2
	カイロ大学（カイロ）	エジプト	1
修士	イマム・ムハンマド・イブヌ・サウド大学（リアド）	サウジアラビア	2
	ブサット・ファトワ・メシール	サウジアラビア	2
	メディナ・イスラーム大学（メディナ）	サウジアラビア	1
	アズハル大学（カイロ）	エジプト	5
	カイロ大学（カイロ）	エジプト	1
	タンタ大学	エジプト	1
	アルベイト大学	ヨルダン	1
	イエメニア大学	イエメン	1
	ロンドン大学（ロンドン）	イギリス	1
	アメリカン大学（ロンドン）	イギリス	1
学士	イマム・ムハンマド・イブヌ・サウド大学（リアド）	サウジアラビア	2
	メディナ・イスラーム大学（メディナ）	サウジアラビア	3
	ウム・アル・クラ大学（メッカ）	サウジアラビア	1
	アズハル大学（カイロ）	エジプト	17
	タンタ大学	エジプト	1
	アルベイト大学	ヨルダン	2
	ムター大学	ヨルダン	2
	リビア大学	リビア	1
	バグダッド大学（バグダッド）	イラク	3
	イスラミック・カレッジ（バグダッド）	イラク	1
	ウエスト・イングランド大学	イギリス	1
	コロラド州立大学	アメリカ	1
ディプロマ	イマム・ムハンマド・イブヌ・サウド大学（リアド）	サウジアラビア	1
	アズハル大学	エジプト	1
	カイロ大学	エジプト	1
	ハット芸術学校	エジプト	1
	ザマレック高等教育学校	エジプト	2
	ヨルダン大学	ヨルダン	1
	ウォールズ大学	イギリス	1

出典：KIAS Buku Panduan Kursus Pengajian Peringkat Diploma 2010/2011M, 2010, pp.9-13より作成



中東諸国の高等教育機関への留学経験者であるという点である。延べ人数であるが、博士号を取得している9名のうち5名、修士号を取得している33名（博士号取得者9名を含む）のうち16名、学士号を取得している54名（博士号取得者、修士号取得者を含む）のうち35名、その他ディプロマ段階で8名が海外留学経験者である。第二に、その留学先をみると、サウジアラビアとエジプトへの留学者が多く、なかでも学士課程でアズハル大学（エジプト）に留学している人数が17名と非常に多くなっていることがわかる。しかし一方で、ヨルダン、イエメン、リビア、イラクへの留学者も数は多くないが存在していることも注目される。また西欧諸国への留学も若干名みられる。

以上、考察してきたように、学生の海外留学および海外からの留学生の受け入れ、そして教員の海外留学歴から、KIASが海外との交流実績を豊富に持ち、またそれを積極的に推進しようとしていることが理解される。

### 3.2 YIK が管轄する学校の状況

#### 3.2.1 設立の経緯と役割

クランタン・イスラーム財団（Yayasan Islam Kelantan: YIK）は、クランタン州政府から州内のイス

ラーム教育とアラビア語学習の諸活動を実施することを委ねられた宗教機関である。クランタン立法1968年第9号（Enakmen Kelantan 9/1968）が施行され、その後、1974年1月1日に創設された。設立当初の名称は、Jabatan Sekolah-sekolah Agama Kelantan（JASA）であった。その後、1979年6月1日にYayasan Pelajaran Islam Negeri Kelantan（YPINK）となり、さらに1983年3月1日に現在の名称つまりクランタン・イスラーム財団となった（YIKパンフレット2010）。

クランタン・イスラーム財団は現在、①クランタン州内の宗教・アラブ中等学校、②ニラム・プリのアラブ言語センター、③パチョックのテロン・カンディスのボンドック学習センター、④コタ・バルのカンプン・シレーのトゥンク・アニス幼稚園 Tadika Tengku Anis に対する管理運営の責任をもっている。このうち、活動の中心である①について以下考察したい。

#### 3.2.2 クランタン州内の宗教・アラブ中等学校の管理運営

2010年のデータによれば、YIK が管轄する学校は全部で93校であり、その内訳は以下の通りである（Yayasan Islam Kelantan 2010）。

表3.3. YIK が管轄する学校

種別	機関数	学習者数	教員数
州立宗教中等学校 Sekolah Menengah Agama Kerajaan	18	19,224	1,148
補助宗教中等学校 Sekolah Menengah Agama Bantuan	45	12,178	810
SABK Sekolah Menengah Agama Bantuan Kebangsaan	20	2,703	304
マアハド・タフーズ・クルアーン Maahad Tahfiz Quran	2	590	55
マアハド・タフーズ・サイエンス Maahad Tahfiz Sains	3	1,240	133
イスラーム幼稚園 Tadika Islam	3	462	43
ボンドック学習センター Pusat Pengajian Pondok	1	227	22
YIK カレッジ	1	218	14
合計	93	36,842	2,528

出典：Yayasan Islam Kelantan 2010より作成

ここで州立宗教中等学校はクランタン州が設立した中等学校、補助宗教中等学校はクランタン州から補助を受けている中等学校、そして SABK はもともと民間の宗教学校であるが、ある一定の要件を満たすことにより連邦の補助を受けられるようになった学校を意味している。この SABK は 9.11 以降の宗教学校に対する新しい施策により生まれた学校である。この 3 種類の学校はいずれも YIK のカリキュラムを採用している。また、マアハド・タフーズ・クルアーンは主としてクルアーン朗誦を学習する教育機関、マアハド・タフーズ・サイエンスは主として化学や数学などの諸科学を学習する教育機関、ボンドック学習センターは主としてイスラーム諸学を学習する教育機関である。これらの教育機関は州や連邦による修了資格をもたないノンフォーマル教育機関として位置づけられる。この他、YIK はイスラーム幼稚園 3 校と YIK カレッジも管轄している。

### 3.2.3 二本柱の教育システム

次に特に YIK が管轄する中等教育学校、つまり州立宗教中等学校、補助宗教中等学校、SABK の教育システムについてみておきたい。これらは設立主体と運営の財源は異なるものの、現時点ではいずれも YIK が定めるカリキュラムを使用している。クランタン州では 1974 年以降、州内の宗教学校に共通する学校教育システムを構築してきており、そのシステムとして最も特徴的なのが 2 種類のカリキュラムとそれに対応した試験制度の導入である。ここでいう 2 種類のカリキュラムとは、①宗教およびアラビア語教科と、②一般教科に対応するカリキュラムが異なっていることを意味している。

宗教およびアラビア語教科に関しては、特に 1993/94 年度以降、エジプトのアズハルを範とするカリキュラム (Maahad Bu'uth al-Azhar カリキュラム) が用いられている。これを学習した生徒は、YIK 試験委員会によって行われる宗教下級中等評価 (Penilaian Menengah Rendah Agama: PMRU)、宗教中等資格 (Sijil Menengah Agama: SMU)、宗教高等資格 (Sijil Tinggi Agama: STU) の各試験を受けることができるようになっていく。しかし、このうち宗教高等資格 (STU) については現在、連邦のマレーシア宗教高等資格 (Sijil Tinggi Agama Malaysia: STAM) に代替されている。

一方、一般教科に関しては、マレーシア教育省によって作成された国民カリキュラム (Kurikulum Kebangsaan) が用いられている。これを学習した

生徒は、マレーシア教育省試験委員会 (Lembaga Peperiksaan Malaysia) およびマレーシア試験評議会 (Majlis Peperiksaan Malaysia) が実施する試験を受けることができる。それらは、下級中等評価 (Penilaian Menengah Rendah: PMR)、マレーシア教育資格 (Sijil Pelajaran Malaysia: SPM)、マレーシア学校教育高等資格 (Sijil Tinggi Persekolahan Malaysia: STPM) である (Yaacob 2011b)。

以下の図 3.1 はこのシステムを示したものである。

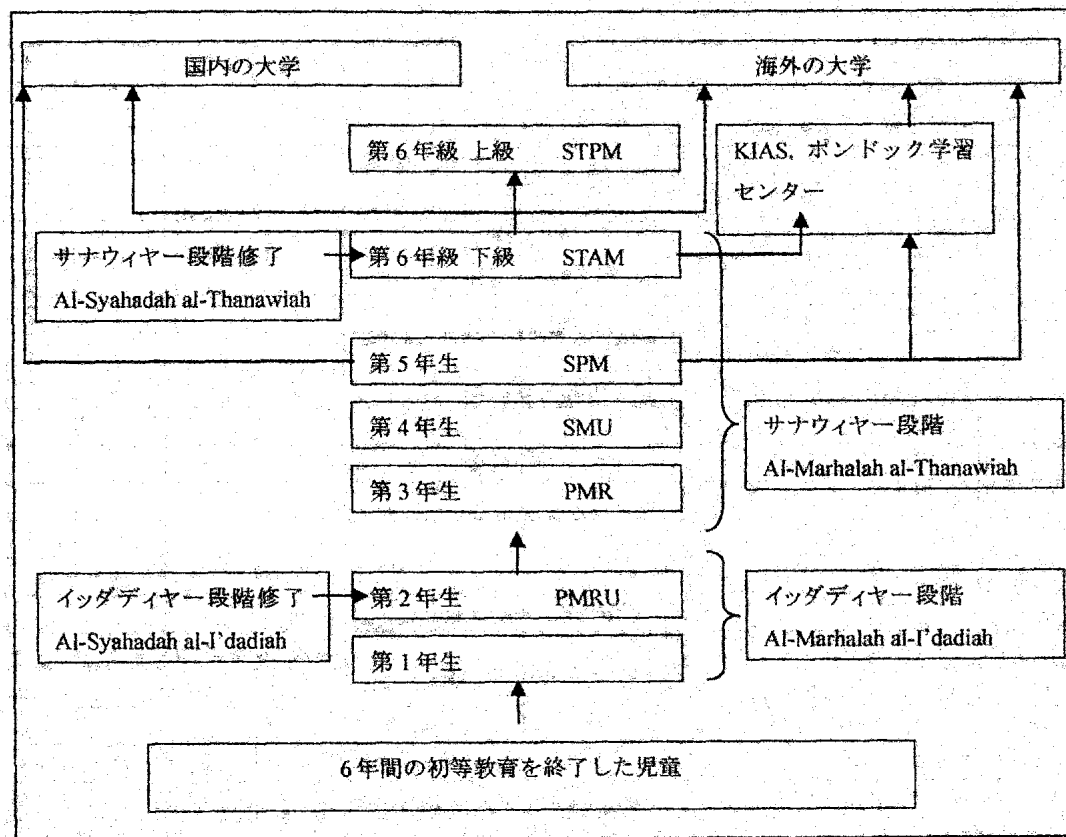
この図では初等教育を修了し、中等教育に入る学年を第 1 年生としている。初等教育は 6 年間であり、原則として第 1 年生は 13 歳である。まず、宗教およびアラビア語教科カリキュラムをみると、第 1 年生と第 2 年生はイッダディヤー段階として位置づけられ、第 2 学年で宗教下級中等評価 (PMRU) を受ける。これによってイッダディヤー段階を修了する。次に、第 3 年生から第 6 年級下級クラスはサナウィヤー段階として位置づけられ、第 4 年生で宗教中等資格 (SMU)、第 6 年級下級でマレーシア宗教高等資格 (STAM) を受ける。これによってサナウィヤー段階が修了となる。一方、一般教科カリキュラムでは、第 3 年生で下級中等評価 (PMR) を受け、第 5 年生でマレーシア教育資格 (SPM)、そして第 6 年級上級クラスでマレーシア学校教育高等資格 (STPM) を受ける。進学についてみると、第 5 年生でマレーシア教育資格 (SPM) を取得した段階がいわゆる O レベル資格取得となるため、第 6 年級またはマトリキュラシを経て高等教育への進学が可能になる。前述の KIAS へは、第 5 年生あるいは第 6 年級下級クラス修了後に進学することになる。

このように、宗教およびアラビア語教科カリキュラム関連の試験と一般教科カリキュラム関連の試験の双方に対応した構造になっていることが特徴である。

### 3.2.4 中等教育カリキュラムの特徴

次に中等教育カリキュラムをみておきたい。表 3.4 はそれを示したものである。なお、この表には第 1 年生の前に必要に応じて行われる 6 か月間の準備教育も示されている。この表から指摘できることは以下の 3 点である。

第一に、教科が多岐にわたり、全体の時間数も多い点である。具体的には、宗教教科が 15 教科、アラビア語教科が 9 教科、一般教科が 11 教科の計 35 教科となっている。そしてどの学年においても週 45 時間 (1 時間 40 分) が教えられている。ただし、各学年によって教えらるる教科は異なるため、準備段階を除き 1 学年単位でみた場合、17 教科から 21 教科である。



出典：Yayasan Islam Kelantan 2010より作成

図3.1. YIKの学校教育システムと試験制度

第二に、宗教教科、アラビア語教科、一般教科はそれぞれ各学年において満遍なく教えられている点である。前述したように1年生を除き各学年には修了資格が設けられているが、該当する修了資格だけにとどまらない教科が教えられていることがわかる。

しかし第三に、それぞれの学年における各教科群の比重は異なっている。これを表にしたものが以下、表3.5である。時間数の欄の括弧内の数字は、全体の時間数45時間に占める割合（％）を示している。学年別にみると、第1年生と第2年生では全体の時間数に一般教科群の占める割合が約4割と高く、さらに第3年生では約5割近くになっている。それに対して宗教教科群は3割強、アラビア語教科群は2割強である。一方、第4年生になるとアラビア語教科群の割合が増えたと同時に一般教科群の割合が低くなる。また第5年生では再び一般教科群の割合が高くなる。しかし、第6年級になると宗教科目群とアラビア語科目群の割合がそれ以前の学年に比して高くなっていることがわかる。

これを前述の修了資格と結びつけて考えてみたい。宗教およびアラビア語関連の修了資格は第2年生、第4年生、第6年級下級クラスに、一般教科関連の修了資格は第3年生、第5年生、第6年級上級クラスに設けられている。第3年生と第5年生における一般教科群の比率の増加と、第4年生におけるアラビア語教科群および第6年級における宗教教科群とアラビア語教科群の比率の増加はこの修了資格と関係していると推測できるだろう。ただし、第2年生と第6年級上級クラスについては修了資格との関係で教科群の割合の変化を説明することは困難であり、他の意味づけが必要である。

以上の考察から、クランタン・イスラーム財団（YIK）が管轄するクランタン州の宗教中等教育学校が、独自の理念とカリキュラムにもとづいて教育を展開していることが理解できる。クランタン州における実践は、マレーシアにおける州の自律性を示すものといえる。

## マレーシア（クランタン州）におけるイスラーム教育の発展に関する一考察

表3.4. YIK が管轄する中等教育学校のカリキュラム

教科の 類別		教科名	準備 段階	第1年	第2年	第3年	第4年	第5年	第6年 下級	第6年 上級
			イッダディヤー段階			サナウィヤー段階				
			-	-	PMRU	PMR	SMU	SPM	STAM	STPM
宗教	01	タジュイド	5	3	3	2	2	1	4	-
	02	タフシール	-	2	2	2	2	1	2	2
	03	ハディース	-	2	2	1	2	1	2	2
	04	フィクフ	-	2	2	2	3	2	2	2
	05	ファライド	-	-	-	-	-	-	2	2
	06	タウヒード	-	2	2	2	2	1	2	2
	07	マンティーク	-	-	-	-	-	-	2	2
	08	イスラーム文明	-	2	2	-	2	-	1	4
	09	クルアーン学	-	-	-	-	-	-	2	2
	10	ハディース学	-	-	-	-	-	-	2	1
	11	ウスル・フィクフ	-	-	-	-	-	-	2	2
	12	イスラーム教育	4	2	2	3	-	-	-	-
	13	PQS	-	-	-	-	1	3	-	-
	14	シャリア	-	-	-	-	2	3	-	-
	15	アフラック	-	1	1	1	1	-	-	-
アラビア語	16	ソロフ	4	2	3	2	5	3	5	5
	17	タアビール	4	2	2	2	3	2	3	3
	18	ムス	4	2	2	2	3	-	2	-
	19	ヒワール	3	-	-	-	-	-	-	-
	20	イムラック・ハット	2	2	2	-	-	-	-	-
	21	バラガ	-	-	-	-	2	2	2	2
	22	ヌスス	-	-	-	-	3	2	3	4
	23	バッコム	2	2	2	4	-	3	-	-
	24	カフィア	-	-	-	-	-	-	1	-
一般	25	マレー語	2	3	3	3	2	3	-	-
	26	英語	2	3	3	3	2	4	2	1
	27	数学	2	3	3	4	2	4	-	-
	28	科学	2	3	3	4	2	4	-	-
	29	歴史	2	2	2	2	2	3	2	4
	30	地理	2	2	2	3	-	-	-	-
	31	生活	2	2	2	3	-	-	-	-
	32	商業 PERDGN	-	-	-	-	2	3	-	-
	33	教養 PAM	-	-	-	-	-	-	2	5
	34	公民	1	1	-	-	-	-	-	-
	35	ジャウイ	2	-	-	-	-	-	-	-
合計			45	45	45	45	45	45	45	45

出典：Yayasan Islam Kelantan 2010より作成

表3.5. 各教科群の割合

	宗教教科群		アラビア語教科群		一般教科群	
	時間数	教科数	時間数	教科数	時間数	教科数
準備段階	9 (20.0%)	2	19 (42.2%)	6	17 (37.8%)	9
第1年生	16 (35.6%)	8	10 (22.2%)	5	19 (42.2%)	8
第2年生	16 (35.6%)	8	11 (24.4%)	5	18 (40.0%)	7
第3年生	13 (28.9%)	7	10 (22.2%)	4	22 (48.9%)	7
第4年生	17 (37.8%)	9	16 (35.6%)	5	12 (26.7%)	6
第5年生	12 (26.7%)	7	12 (26.7%)	5	21 (46.7%)	6
第6年級下級	23 (51.1%)	11	16 (35.6%)	6	6 (13.3%)	3
第6年級上級	21 (46.7%)	10	14 (31.1%)	4	10 (22.2%)	3

注記）小数点第2位は四捨五入した。

出典：Yayasan Islam Kelantan 2010より作成

## おわりに

マレーシアにおける教育の歴史的展開は、これまで当然のことながら首都クアラルンプールを中心とする国家レベルの像で描かれてきた。近代国家としてのマレーシアが、植民地支配からの独立という政治的経緯を経て領土（国境）が確定されたことを振り返れば、そうした記述が必然的なことは論をまたない。より広い地域を特徴づけた文化的・宗教的な緩やかな一体性は、国境によって分断され、クアラルンプールが植民地行政の中心として、後には独立国家の中心として突出するようになり、同時に国境内に包摂された地域を徐々に周縁化し、国内的な中心-周縁構造を強化させてきた。しかし、マレー・イスラーム世界としての地域の紐帯、国境をこえた紐帯は、近代国家の形成に抗い、地域の周縁化に抗う性格を帯びていた。歴史的な事件の積み重ね（連鎖）が今日の姿に結実してきたことは否定すべくもないが、過去のそれぞれの時点で、ローカルな視点からは今日の姿が予想（予期）されたわけではなく、それぞれの地域でさまざまな運動と抵抗が試みられてきた。結果としては、その思い描いた通りに結実しなかったとしても、こうした地域のダイナミズムの中で、マレーシア教育の歴史を捉え記述することはできないだろうか。そのために、どのような記述スタイルが比較教育学の研究として相応しいのだろうか。

本稿ではマレーシアの東海岸北部のクランタンとその中心都市コタ・バルに焦点をあて、イスラーム教育の発展をあとづけ、現在の状況と特質を明らかにしようとした。マレーシアの場合、植民地支配と独立の経緯から、イスラームと慣習に関する権限を原則的に州が保持してきたことが、イスラーム教育の州独自の

発展につながっている。他方で宗教慣習評議会 MAIK の設立からクランタン・イスラーム財団 YIK によるイスラーム教育行政に至る歴史を振り返れば、クランタン自体の内部に形成されてきた中心-周縁構造も明白となる。連邦による一般教育資格制度と州によるイスラーム教育資格制度が接合され調整されてきたが、それは二つのレベルにおける中心を強化することにつながった。イスラーム高等教育機関 YPTIK の創設、その後、いったんは連邦システムに統合されるが、1990年代半ばからマレーシア高等教育が新しい段階に入り、クランタンにあらためて国際イスラーム・カレッジ KIAS が設立され発展しつつある点も興味深い。カリキュラム面ではイスラーム諸学と一般諸学の統合、特にイスラームと科学・技術との接合がはかられてきた。イスラーム諸学の学習だけでなくイスラーム世界との繋がりからも、この地における国際化は英語だけでなくアラビア語の重要性を喚起してきた。しかし、こうした流れの把握に関して簡潔にまとめて結語とすることは本稿の目的にあさわしくもないかもしれない。テキストの記述は読み手にとって、時の経過をこえて前後に行き来することを保障し、解釈の試みと反復を可能にする。一元的な理解・納得を努めて回避し、読み手とともに時間と地域を自由に行き来しながら過去を想像できるように、中心と周縁を散りばめたコラージュ的な記述を一步進めることが一つの可能な方向であるかもしれない。

追記：本論文は、科学研究費補助金（基盤C）「現代イスラーム高等教育機関の価値多元化社会への対応に関する国際比較研究」（平成21～23年度、研究代表者：服部美奈）の研究成果の一部である。

〔注〕

- 1) マレーシア統計局のHP (<http://www.statistics.gov.my/portal/index.php>) [2011年12月10日閲覧]内のPopulation and Housing Census, Malaysia 2010のデータにもとづく。
- 2) 実質的には、輪番制が採られている。
- 3) イスラーム暦1328年は、西暦1910年1月13日から12月31日までである。また、この年から、行政上の目的から、西暦が採用されることが決められた。
- 4) <http://epondok.wordpress.com/tokoh-ulama/> [2011年12月9日閲覧]
- 5) ワン・イシャクがクダにポンドック・ブラウ・ピサンを、ワン・ハサン・ビン・イシャク・ブスットがトレンガヌにポンドック・ブスットを設立するなど、マレー半島北部にポンドックが設立された。
- 6) ムハンマドの血をひいた子孫の場合、男性にはサイド、女性にはシャリファが名前に冠される。

〔参考文献・資料〕

- Abdul Razak Mahmud (2010). MAIK Peranannya Dalam Bidang Keagamaan, Persekolahan, dan Penerbitan di Kelantan Sehingga 1990, Kuala Lumpur: Dawama Sdn.Bhd.
- Annual Report Federated Malay States for the Year 1898.
- Awang Had Salleh (1980). Pelajaran dan Perguruan Melayu di Malaya Zaman British. Dewan Bahasa Dan Pustaka.
- Ibrahim Narongraksakhet (2010). *Shaykh Daud al-Fatani: Jawi Textbooks and the Malay Language*, Rosnani Hashim (ed.) Reclaiming the Conversation: Islamic Intellectual Tradition in the Malay Archipelago, The Other Press.
- KAR (Kelantan Administration Report) for the Year 1909, 1910, 1918.
- KIAS (2007). *Prospektus KIAS 2007/2008*.
- KIAS (2010). KIASパンフレット.
- KIAS (2010). *KIAS Buku Panduan Kursus Pengajian Peringkat Diploma 2010/2011M*.
- Mohamed B. Nik Mohd. Salleh (1974). *Kelantan in Transition: 1891-1910*, Roff, William R. (ed.) Kelantan: religion, society, and politics in a Malay state, Oxford University Press pp.22-61.
- Roff, William R. (2009). *Studies on Islam and Society in Southeast Asia*, NUS Press Singapore.
- Rosnani Hashim (2004). *Educational Dualism in Malaysia: Implications for Theory and Practice* [2nd edition], The Other Press.
- Wan Burhadin bin Wan Omar (1983). Yayasan Pengajian Tinggi Islam Kelantan (Sehingga 1974), in Nik Abdul Aziz bin Haji Hassan (ed.), *Islam di Kelantan*, Kuala Lumpur: Persatuan Sejarah Malaysia, 1983, pp.91-150.
- Yaacob bin Yusoff Awang (2011a). *Pendidikan Asas dan Pendidikan Tinggi Islam di Kelantan-Pondok dan KIAS*, Presentation Paper at Workshop "Islamic Education in the Malay World" (Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University, 17 Maret 2011).
- Yaacob bin Yusoff Awang (2011b). *Pendidikan Islam Negeri Kelantan: Peranan Ulama dan Perkembangannya Hingga Kini*, Presentation Paper at Workshop "Islamic Education in the Malay World" (Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University, 17 Maret 2011).
- YIK (2010). YIKパンフレット.
- YIK (2010). Yayasan Islam Kelantan 紹介冊子.
- YIKのHP <http://yik.edu.my/v2/index.php/extensions/s5-css-js-compressor>
- ロスナニ・ハシム (2010) 「タナームラユにおけるイスラーム教育改革：セイイド・シャイフ・アフマッド・アルハディ (1867-1934) の人となり」西野節男編『東南アジア・マレー世界のイスラーム教育—マレーシアとインドネシアの比較』東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター, 35-56頁.
- ワン・マズワティ・ワン・ユソフ (2010) 「トゥ・クナリ：タナームラユにおける伝統的教育の改革」西野節男編『東南アジア・マレー世界のイスラーム教育—マレーシアとインドネシアの比較』東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター, 57-80頁.

## A Study on Islamic Educational Development in Kelantan, Malaysia

Mina Hattori\*, Setsuo NISHINO\*\*, Tadashi KOBAYASHI\*\*\*

Kelantan is one of the thirteen states in Malaysia. Malay Muslim represents 95% of the total population and Islam is dominant in terms of social, political and cultural systems. Kelantan, coined "Mecca's verandah (Serambi Mekah)" has a deeply-rooted tradition of Islamic education. This article aims to reconsider Malaysian Islamic educational development in relation to local, national, and global contexts by analyzing Islamic education in Kelantan.

First, we discuss the transition process in Kelantan from a traditional Islamic educational institution, *Pondok*, to a modern Islamic educational institution, *Madrasah*. *Pondok* were modeled on the Islamic institutions in west Sumatra or Patani, southern Thailand. *Pondok* in Kelantan were established by *ulama* who had studied at Patani, Mecca and other *pondok*. Then MAIK (Majlis Agama Islam dan Adat Istiadat Melayu Kelantan) established Madrasah under the leadership of Tok Kenali in 1917.

Secondly, we examine the development process in Kelantan's Islamic education from 1915 to 1990 on the basis of four divisions. First, we clarify the school system under the MAIK before independence in 1957. MAIK set up the Madrasah Muhammadiyah as a Malay vernacular school with English subjects and other *Madrasah* in Kelantan. Madrasah then opened an Arabic stream including some general subjects. Subsequently, the Arabic schools expanded after WW II to 9-year courses which had three stages: *Ibtida'i*, *Idadi* and *Thanawi*. Following, the Arabic schools strengthened relationship with al-Azhar, University in Egypt, and the state government established PPTIK (Pusat Pengajian Tinggi Islam Kelantan, later YPTIK: Yayasan Pengajian Tinggi Islam Kelantan) for graduates of religious schools. Although the teaching medium of religious subjects in YPTIK was at first Arabic, the medium became Malay after the integration of the Islam Academy at Malaya in 1981.

Finally, we examine the Islamic educational development in Kelantan after 1990 when the Islamic Party became the ruling party in the state level. In particular, we focus on Kolej Islam Antarabangsa Sultan Ismail Petra (KIAS) and schools under the YIK (Yayasan Islam Kelantan). The state government established one higher Islamic institution, Maahad Al-Dakwah wal Imamah whose teaching medium was Arabic. The name was changed into KIAS in 1994. KIAS has three programs for bachelor, diploma and certificate. The bachelor program is a twining program with KUIH (Kolej Universiti Insaniah) in Kedah. In addition KIAS has a more international characteristic in terms of network with other educational institutions and academic qualifications of its academic staff. This analysis of the school curriculum gives us a greater understanding of Kelantan's originality in the Malaysian Islamic education.

---

\* Associate Professor, Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University

\*\* Professor, Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University

\*\*\* Student, Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University